

宮崎市文化財調査報告書 第97集

うりゅうのしょうがっこうこうてい  
瓜生野小学校校庭遺跡

—児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書—



2013

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書 第97集

瓜生野小学校校庭遺跡

2013

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書 第97集

うりゅうのしょうがっこうこうてい  
瓜生野小学校校庭遺跡

—児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書—

2013

宮崎市教育委員会

## 序

本書は、宮崎市立瓜生野小学校敷地内の児童クラブ建設に先立ち、平成24年10月15日から平成24年10月26日まで実施した瓜生野小学校校庭遺跡の発掘調査報告書です。

本遺跡は、詳細分布調査の成果から、これまで奈良時代から平安時代に属する遺跡と考えられていましたが、今回の発掘調査で約4500年前の縄文時代後期の土器が見つかり、その時期から人々が生活の場としていたことが明らかになりました。

この調査成果は、瓜生野地区の歴史を知るうえで貴重なものであり、今後、学校教育や生涯学習など、地域の皆様に大いに活用していただきますよう期待しております。

最後に、この発掘調査を実施するに当たり、ご理解ならびにご協力を賜りました地域の皆様や各関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成25年12月

宮崎市教育委員会  
教育長 二見俊一

## 例 言

- 1 本書は、児童クラブ建設に伴い実施された埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、宮崎市教育委員会生涯学習課より依頼を受けた同委員会文化財課が平成24年10月15日から平成24年10月26日までの期間で実施した。

### 3 調査組織

調査主体	宮崎市教育委員会	文化財課	
調査総括	課長	橋口 一也	
	課長補佐	山田 典嗣	
	副主幹兼埋蔵文化財係長	島田 正浩	
調査調整・庶務	主査	鳥枝 誠	
調査員	主任技師	秋成 雅博	
	嘱託	川野 誠也	
整理作業	嘱託	玉谷 鮎美	

- 4 本書の執筆は、第I章1を鳥枝が、その他は川野が行った。
- 5 掲載した図面の実測・製図・図版の作成は、秋成・川野が行った。
- 6 現場の写真撮影は川野が行った。
- 7 発掘調査により出土した遺物及び調査における図面、写真等は、宮崎市教育委員会が保管している。  
資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。
- 8 方位は地図は真北、図面上は磁北とする。
- 9 本書で使用した土層の色調は『新版 標準土色帖』に準拠した。
- 10 遺構の略名は土坑をSC、柱穴をPitとする。
- 11 本書の編集は川野が行った。

# 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の立地と歴史的環境	2
3. 調査の経過	2
第Ⅱ章 調査の成果	
1. 層序	3
2. 遺構	4
3. 遺物	4
4. まとめ	6

# 挿図目次

第1図 調査地周辺主要遺跡分布図	1
第2図 遺跡周辺地形図	2
第3図 基本土層図	3
第4図 遺構配置図	3
第5図 SC1 土層図・平断面図	4
第6図 出土遺物実測図①	5
第7図 出土遺物実測図②	6

# 表目次

第1表 出土縄文土器観察表	7
第2表 出土須恵器・土師器観察表	7
第3表 出土石器観察表	7

# 図版目次

図版1	8
調査地遠景（西から） / 調査区全景（北東から）	
図版2	9
調査区全景（真上から） / 調査地基本層序（北から） SC1 完掘状況（西から）	
図版3	10
出土遺物	

## 第1章 はじめに

### 1. 調査に至る経緯

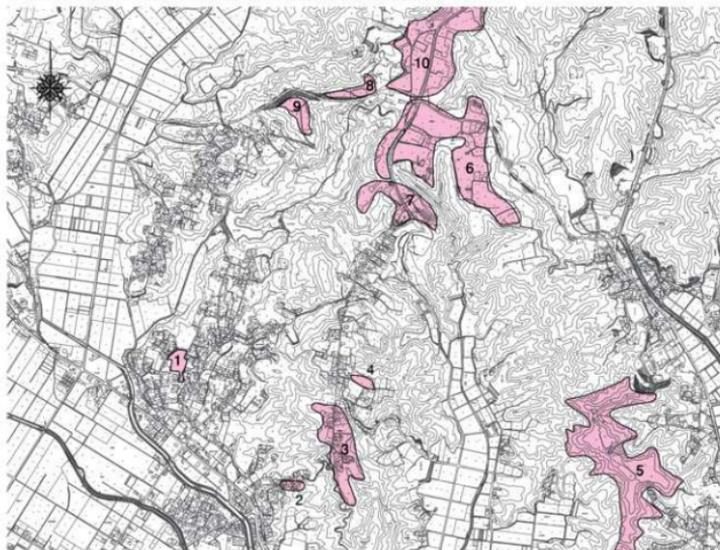
平成23年10月25日に宮崎市教育委員会生涯学習課より、平成24年度事業に伴い、瓜生野小敷地内における埋蔵文化財の有無について照会があった。対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「瓜生野小学校校庭遺跡」に隣接することから、試掘調査が必要であると回答し、平成24年4月23日に試掘調査を実施した。

当初の計画では、プレハブ建ての既存の児童クラブ建物とほぼ重なる位置での建設が予定されていたため、建物東側にトレンチ1箇所を設定して試掘調査を行った。その結果、堅穴状遺構が2基検出され、古代の土師器が出土した。

その後、新築される建物の位置が既存の児童クラブ建物の南側へと変更になったことから、8月31日に2回目の試掘調査を行った。試掘調査は、トレンチ3箇所を設定して行い、土坑2基ほか柱穴が検出され、遺構内外より縄文時代後期の土器、古代の土師器が出土した。

2回の試掘調査の結果、建設予定地は、アカホヤ火山灰層まで削平を受けているが、遺構が残存していることが確認されたため、新築される鉄骨造平屋建ての児童クラブ建物部分約90㎡を対象として発掘調査を行い記録保存の措置をとることとした。

発掘調査は、平成24年10月15日から10月26日までの期間行った。



1. 瓜生野小学校校庭遺跡 2. 野首遺跡 3. 竹篠城跡 4. 竹篠遺跡 5. 宮崎城跡  
6. 垂水第2遺跡 7. 今城跡 8. 金剛寺原第1遺跡 9. 金剛寺原第2遺跡 10. 垂水第1遺跡

第1図 調査区周辺主要遺跡分布図 (S = 1/20,000)

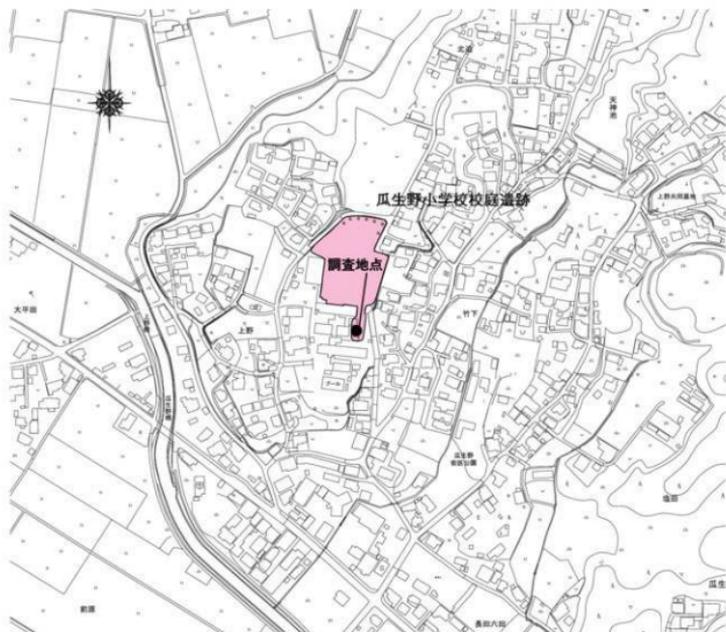
## 2. 遺跡の立地と歴史的環境

瓜生野小学校校庭遺跡の立地する丘陵は、宮崎平野の中央部北寄りに位置しており、大淀川とその支流である本庄川左岸の台地の南端部に立地する。調査地周辺では古代の遺物と思われる土師器片が多数表採出来ることから遺跡の時期は古代に属していた。

本遺跡の台地上の北部に位置する垂水第1遺跡や垂水第2遺跡は旧石器時代や縄文時代の遺物が出土している。また、谷を隔てた東西の台地上にも数多くの遺跡が存在する。遺跡のある台地の谷を挟んで西側にある柿木原台地上では人骨と刀子が出土した柿木原地下式横穴が、東側にある台地上では円筒埴輪や形象埴輪が出土した下北方古墳群や、多くの副葬品が出土した下北方地下式横穴群など古墳時代の遺跡が調査されている。

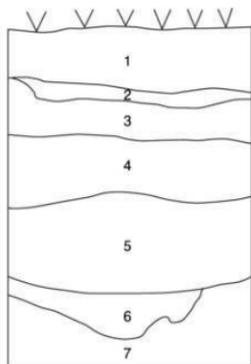
## 3. 調査の経過

調査は、10月15日にバックホウを使って表土剥ぎを行い、土坑と柱穴を確認した。10月16日から遺構とトレンチの掘削を始め、土坑と柱穴から縄文土器が出土した。10月22日から写真撮影、実測作業を始めた。10月24日に全景写真を撮影し、撤収作業を行った。10月26日にはバックホウによる埋め戻しを行い現地での調査を終了した。



第2図 遺跡周辺地形図 (S = 1/5,000)

## 第II章 調査の成果

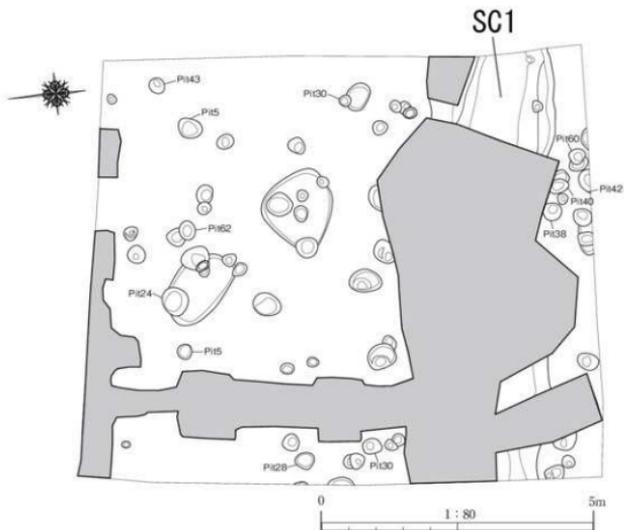


第3図 基本土層図

### 1. 層序

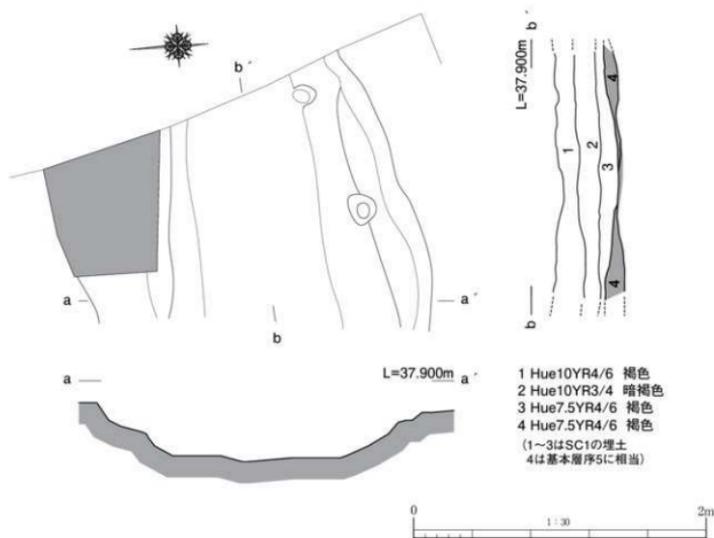
瓜生野小学校校庭遺跡における基本層序は以下の通りである。

- 1 (Hue10YR5/2 灰黄褐色) 締りはやや強い。整地層。
- 2 (Hue10YR4/2 灰黄褐色) 締りは弱い。整地層。
- 3 (Hue10YR5/1 褐灰色) 締りは強い。整地層。
- 4 (Hue10YR3/3 暗褐色) 締りはやや強く、遺物を含む。
- 5 (Hue7.5YR4/6 褐色) 締りはやや強い。地山層。
- 6 (Hue10YR4/6 褐色) 締りはやや強く、軽石を微量含む。
- 7 (Hue10YR6/8 明黄褐色) シラス。



※網掛け部は復元

第4図 遺構配置図 (S = 1/80)



第5図 SC1 土層図・平面断面図 (S=1/30)

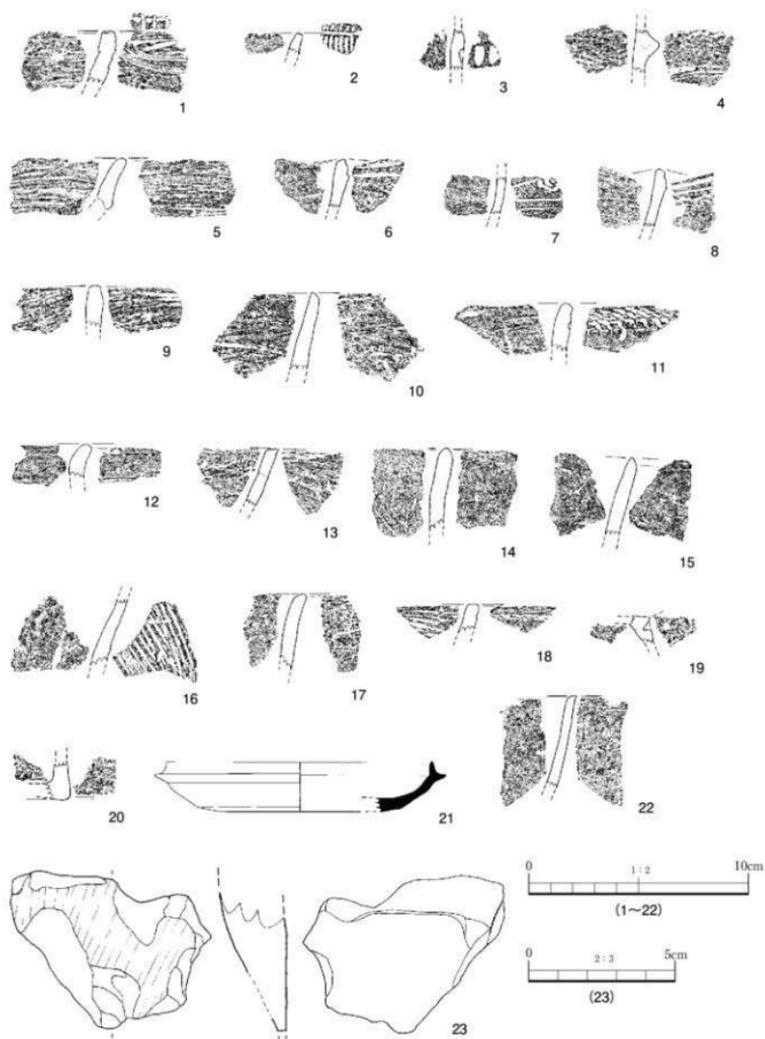
## 2. 遺構

調査区の南東で土坑が1基検出された。西側と北側の一部が攪乱で破壊され、東側は調査区壁に続いているため全形を知ることは難しいが、埋土の堆積状況で僅かながら立ち上がりを確認できたため土坑と認定した。残存部は南北の軸で2.29mである。また、上部を後世の削平により喪失しており、残存部の深さは0.4mである。

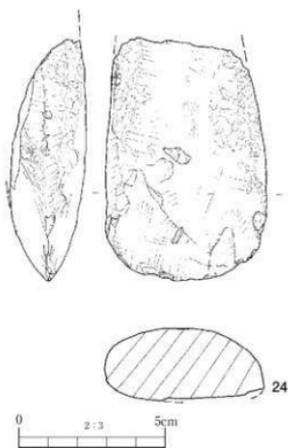
遺物は縄文土器6点(第6図No.8、9、10、13、17)と石製品1点(第6図No.23)が出土した。遺構の埋没時期は、出土した遺物から縄文時代後期と考えられる。

## 3. 遺物

1~3は宮之迫式土器である。1は口縁端部に沈線を巡らした後にキザミ目が施されており、口縁部下には不規則な沈線文が施されている。2は口縁部直下に短沈線が連続して施されている。3は口縁部付近と思われ、刺突が巡らされている。4は市来式土器で口縁部下は断面が三角形の粘土紐をつけ、そこに貝殻刺突文を施している。6は口縁部下に2条の沈線文が施されている。7、8は西平式土器である。7は磨消縄文がみられる。8は波状口縁で、口縁部下に2条の沈線文が施さ



第6图 出土遺物実測図① (1~22: S=1/2 23: S=2/3)



第7図 出土遺物実測図① (S=2/3)

れている。9～11は納屋向式土器である。9、10は無文だが調整と胎土が類似している。12～18は無文であるが他の有文土器の時期から、いずれも縄文時代後期に属するものと考えられる。19は台付皿形土器である。20は鉢の底部で底面には白色の付着物がある。21は古墳時代の須恵器の杯身片である。22は土師器の口縁部片である。小片のため時期は不明である。23は滑石製の不明石製品である。全体的に赤化しており熱を受けた可能性があるが使用方法は不明である。24は頁岩製の磨製石斧である。基部が欠損しており、欠損後の再利用は認められない。刃部には使用後に付いた可能性のある剥離面が観察される。刃部以外は敲打痕を残すことや大きさから縄文時代の石斧と思われる。

#### 4. まとめ

今回の調査成果は縄文時代後期の土坑1基と遺物が確認されたことである。これまで確認されていた古代の遺物以外に、縄文時代後期の遺物を確認することができた。

調査地は攪乱により破壊されている箇所が多く、調査面積が90m<sup>2</sup>と、遺跡の様相を把握するには狭かったため、今回は遺構や遺物の確認に留めざるを得ない。

#### 参考文献

- 宮崎県教育委員会 1995年『字頭遺跡・八見遺跡』 県道高岡・郡司分線道路改良事業に伴う発掘調査報告書  
 宮崎市教育委員会 2006年『本野原遺跡三』 宮崎市文化財調査報告書第62集  
 小林達雄 2008年『総覧 縄文土器』 株式会社アム・プロモーション  
 水ノ江和同 2012年『九州縄文文化の研究－九州からみた縄文文化の枠組み－』 雄山閣

第1表 出土縄文土器観察表

No.	出土位置	器形	部位	文様及び調整		色 調		胎 土			備 考	
				外 面	内 面	外 面	内 面	石 灰	黒 色 石	砂 粒		
1	PI60	深鉢	口縁部	ナテ・沈線文	横位ナテ	10YR6/4(淡黄緑)	10YR6/4(淡黄緑)	○	○	○	3mm以下	口縁縁部にキズ目
2	PI42	深鉢	口縁部	貝殻縁線刺突文	ナテ	7.5YR6/3(にじみ黄)	10YR7/4(にじみ黄緑)	○	○	○	2mm以下	
3	PI60	深鉢	口縁部付近	ナテ・刺突文	横位ナテ	10YR7/6(明黄緑)	10YR7/6(明黄緑)	○	○	○	1mm以下	
4	PI43	深鉢	胴部	ナテ・突帯文・貝殻縁線刺突文	ナテ・庄線文	5YR6/4(にじみ赤緑)	5YR6/6(橙)	○	○	○	1mm以下	
5	PI38	鉢	口縁部	ナテ	ナテ	10YR7/3(にじみ黄緑)	10YR7/6(明黄緑)	○	○	○	2mm以下	
6	PI13	深鉢	口縁部	ナテ・沈線文	横位ナテ	7.5YR6/3(にじみ黄)	7.5YR6/3(にじみ黄)	○	○	○	3mm以下	波状口縁
7	PI5	鉢	胴部	ナテ・沈線文	横位ナテ	2.5Y4/3(オリーブ黄)	2.5Y2/1(黒)	○	○	○	特殊	磨消縄文
8	SC1	深鉢	口縁部	横位ナテ・沈線文	横位ナテ	10YR4/3(にじみ黄緑)	7.5YR6/4(にじみ黄)	○	○	○	1mm以下	波状口縁
9	SC1	深鉢	口縁部	貝殻条帯文→ナテ	貝殻条帯文→ナテ	10YR4/6(黄)	10YR4/6(黄)	○	○	○	1mm以下	
10	SC1	深鉢	口縁部～胴部	ナテ	ナテ	7.5YR6/6(橙)	7.5YR6/6(橙)	○	○	○	特殊	
11	不明	深鉢	口縁部	貝殻縁線刺突文	貝殻条帯文→ナテ	7.5YR6/6(明黄)	7.5YR6/6(明黄)	○	○	○	1mm以下	
12	PI38	不明	口縁部	横位ナテ	横位ナテ	10YR5/4(にじみ黄)	10YR5/4(にじみ黄)	○	○	○	3mm以下	
13	SC1	不明	口縁部	横位ナテ	横位ナテ・指押え	7.5YR7/3(にじみ黄)	7.5YR3/1(黒黄)	○	○	○	3mm以下	
14	不明	深鉢	口縁部～胴部	横位ナテ・指押え	横位ナテ	7.5YR7/4(にじみ黄)	7.5YR7/4(にじみ黄)	○	○	○	1mm以下	
15	PI24	深鉢	口縁部	横位ナテ	横位ナテ	7.5YR6/6(橙)	10YR7/4(にじみ黄)	○	○	○	2mm以下	
16	PI43	不明	胴部	貝殻条帯文	ナテ	10YR6/4(にじみ黄)	10YR6/4(にじみ黄)	○	○	○	2mm以下	
17	SC1	鉢	口縁部	横位ナテ	横位ナテ	7.5YR7/6(橙)	7.5YR3/1(黒黄)	○	○	○	2mm以下	外面にスス付着
18	PI30	深鉢	口縁部	横位ナテ・押型文	貝殻条帯文→ナテ	5YR5/4(にじみ赤緑)	5YR6/6(橙)	○	○	○	2mm以下	
19	SC1	台付皿	不明	横位ナテ	指押え	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	○	○	○	特殊	穿孔あり
20	PI62	鉢	底部	横位ナテ	ナテ・指押え	7.5YR6/6(明黄)	2.5Y7/3(淡黄)	○	○	○	5mm以下	底部に付着物

第2表 出土須恵器・土師器観察表

No.	出土位置	器種	部位	文様及び調整		色 調		法量 (cm)		胎 土			備 考	
				外 面	内 面	外 面	内 面	口縁	底径	器高	宮崎小石	石英		黄褐色石
21	PI13	杯身	口縁部～胴部	ナテ	ナテ	5Y7/2(灰白)	5Y7/2(灰白)	10cm	10.8cm	3.4cm	○	1mm 微少	○	○
22	PI28	不明	口縁部～胴部	風化のみ不明瞭	目コナテ	7.5YR7/6(橙)	10YR6/6(黄)	○	○	○	2mm 多い	1mm 微少	○	2mm 微少

第3表 出土石器観察表

No.	出土位置	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
23	SC1	不明石製品	滑石製	(5.4)	(6.9)	(2.5)	73.27	
24	PI40	磨製石片	頁岩製	(8.3)	(5.4)	(2.6)	16.0	基部欠損

図版 1



調査地遠景（西から）



調査区全景（北東から）

図版2



調査区全景（真上から）



調査地基本層序（北から）



SC1 発掘状況（西から）

图版3



出土遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	うりゆうのしょうがっこうこうていいせき							
書名	瓜生野小学校校庭遺跡							
副書名	児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第97集							
編著者名	川野 誠也							
発行機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目14番20号 TEL (0985) 21-1836							
発行年月日	2013年12月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うりゆうのしょうがっこう 瓜生野小学校 こうていいせき 校庭遺跡	みやまきけふらやまみやまし 宮崎県宮崎市 うりゆうのしょうがっこう 瓜生野2589番 地	45201	23-031	31° 58' 13" 付近	131° 23' 15" 付近	2012.10.15 ) 2012.10.26	90㎡	児童クラブ 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
瓜生野小学校 校庭遺跡	散布地	縄文時代 後期	土坑、柱穴	土器 石器				
要約	市来式土器や納屋向式土器、宮之迫式土器など縄文後期の土器片が出土した。							

宮崎市文化財調査報告書 第97集

瓜生野小学校校庭遺跡

－児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書－

2013年12月

発行 宮崎市教育委員会